

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後寺子屋				公表日	令和7年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		人口芝グランド開設により、運動スペースと落ち着いて過ごす場所を分離できた。	利用中の安全確保 遊具等の点検	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		○	職員配置数は問題ないが、職員が急な休みになった場合、送迎含め大変な事も見受けられた。	送迎専従者の雇用	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	引き扉でない箇所は、手指を挟まないよう対応していた。根本的な対応ではない。	法人本部が対策を講じる	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		100%とは言えないが、サービス業であるとの考えから試行錯誤し対応できたと考ええる。	職員の意識改革や他事業所との交流で、他に学び活かす必要がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日メモを取り療育に活用するよう指示するが、中々、療育に生かすことが出来ていない。メモ化＝療育の基本を意識づけする必要がある。	職員の意識改革や他事業所との交流で、他に学び活かす必要がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		関係機関から他社の動向を聞く、また、弊社の話などを聞き、運営に活かしたと考える。	法人外の第三者評価が必要	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○	利用児童の利益を最優先すべきであるが、職員のレベルが追いついていない面が見受けられた。朝会で指示するが、時間を掛けて教育していく必要を感じる。	放課後デイサービスの原点に戻り、何の為に誰に何を支援・サービスの提供を行うのか？を学び活かす。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当制を採用するが、十分に作成できなかった事が見受けられ、代替者が作成することがあった。	児童の為に最優先であり、支援の進め方が容易になる手法はNGである。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		担任制で個別に支援を実施している。	児童の為に最優先であり、支援の進め方が容易になる手法はNGである。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		朝会で情報共有を実施している。	結果報告に留まらず、影響や支援手法など振り返りによって、適切な支援（サービス）を提供しなければならない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		試行錯誤＝サービス改善と位置づけております。見直しは頻繁に実施しております。	結果報告に留まらず、影響や支援手法など振り返りによって、適切な支援（サービス）を提供しなければならない。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自立に向け「選択と決定」を支援している。卒業に必要なものであり、時間を掛けて指導支援を実施中。	分かりやすい、関心・興味を持てるなど、選択と決定が容易にできるよう配慮すべき。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担任制を行っておりますので参加しております。	関係機関と対等に話し合いに参加できるレベルに職員を育てる必要がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	十分とは考えられない	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	今後、検討し取り組んでいく必要を感じている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	対応可能であるが、関係機関からの提供はない	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	今後、検討し取り組んでいく必要を感じている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	今後、検討し取り組んでいく必要を感じている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	今後、検討し取り組んでいく必要を感じている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		モニタリング時に、障害に関する考え方や取り組み方を話し合っているが、普及には時間を要する。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	様々な環境下で交流が難しい。但し、オンラインフェスティバルなどでは、家族間の交流が実現できている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		LINEトークでいつでも相談や問い合わせができるように対応しています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		ヘルプカードに記載し対応しております。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○		スタッフへ毎月1回以上の報告を義務化している。問題は、ヒヤリをどう活用するのか？職員の資質が問われる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○		